

【新協三目標】

1. 国民の住まいづくりに奉仕する
2. 中小建設業者との協力共同で経営を発展させる
3. 建設にたずさわる人々の生活向上をめざす

よい建物!よいアフター!

住まいの友 おおさか

<http://www.shinkyo-ken.co.jp>

大阪支店

osaka@shinkyo-ken.co.jp

新協建設工業(株)
大阪支店・堺営業所
堺市堺区寺地町東4-2-11
TEL 072-229-2873
FAX 072-229-2874

生活支援施設「こぶしの里」もうすぐ完成

今年の初めに着工した「こぶしの里」生活支援施設(グループホーム)の工事が順調に進んでいます。

この建物は木造の準耐火構造の建物になり、防火区画もあるので石こうボード張りが大変です。しかし、その石こうボード張りも間もなく終わり大工工事も終わる予定です。

その後クロス貼り等の内装仕上げ工事に取り掛かっていきます。

外部は天気も確認しながらとなりますがフェンス、ブロック工事等の外構工事が急ピッチで進んでいます。

引き渡しも迫って来ますが、これからはコロナ対策だけでなく、熱中症にも気を付けて頑張っていきたいと思います。



住宅インスペクション

先日、中古住宅を購入してリフォームを検討されているお客様から、「住宅インスペクションが出来ますか?」との電話がありました。

インスペクションとは建築士等で講習を受講した者が、目視で屋根や外壁、床下、室内、小屋裏などの劣化状況を診断、欠陥の有無や改修すべき箇所、時期等を現地調査して診断書を作成することです。

これからは人口が減少して空家が増えることが予想されます。

空家を購入して後で後悔しないためにも、住宅インスペクションをされてはいかがでしょうか。



全国安全週間

7月1日から一週間「全国安全週間」が取り組まれます。例年この時期に取り組まれており、今年のスローガンは「エイジフレンドリー職場へ！みんなで改善 リスクの低減」となっています。

コロナウイルスの影響もありマスクを手放せなくなっていますが、気温もどんどん上昇しており熱中症が心配な季節になってきました。

環境省から熱中症警戒アラートが発表されています。しかし、コロナ対策もしなくてはなりません。給水を十分に行う。作業中はソーシャルディスタンスが保てるならマスクを外す等臨機応変に対応することが必要です。

事務所にも横断幕を設置して注意喚起をしています。暑い夏を無事故で乗り切るよう大阪支店も頑張っていきます。



ちよこっと建築の話 その2 基礎工事

物事を始める際に「基礎編」「応用編」と言われるように、その大本になっているものを基礎と呼びますが、建物の基礎は建物本体の重量を地盤に伝え、地震時には建物が壊れないように守る大切なものです。

基礎と言っても色々な種類があり建物が建てられる敷地や地盤の状態によって独立基礎、べた基礎、深基礎、高基礎などがあり、以前は無筋コンクリート製でしたが、現在では鉄筋コンクリート製です。

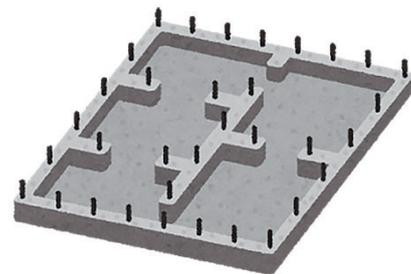
さて、基礎工事ですが天気に大きく左右されます。

それは土を掘りコンクリートを打設して基礎を作るので、工事車両が頻繁に出入りします。その際、道路に泥でタイヤ跡を付けてしまったら大変なことになります。すぐさま近隣住民から苦情が入り工事が止まるなんてこともあります。

また、土を掘っていると工事の障害となるものが出てきたりします。以前に建っていた建物の基礎の残骸や配管類、レアなものとしては土器などの歴史的遺構、戦時中の不発弾や重金属類などの有害物質などがあり、役所へ届け出てしかるべき対応をする必要があることもあり工程が大きく遅れたりすることがあります。

宝物でも出てくればうれしいですが、掘ってみないとわからないのが基礎工事です。

ですから建築工事の中で一番施工時間が読みづらい工事です。



編集後記

コロナウイルス感染の山場もとりあえずは超えることができ、外出や営業自粛も解除され、通勤電車も以前のように人で一杯になってきました。

しかしながら、感染者は東京では100名以上出ている状況です。本当に大丈夫なのかと言う不安の声もありますが、景気回復も大事だという事でしょうか。

これからも個人でできる対策は十分にしていきたいと思います。

さて、コロナ不況の経済対策として個人に給付される10万円の定額給付金を先日申請しました。一ヶ月程過ぎ、まだ届いてませんが大変ありがたいものです。

ごはんを食べに行こうか、欲しかったものを購入しようか色々考えております。

停滞した経済の起爆剤なればいいと思いますが喜んでばかりはいられません。この費用はすべて私たちが収めた税金から出ているお金です。国の借金として将来負担が膨らんだだけのことです。

コロナ対策として必要な費用は仕方ないのですが、次世代に負担を背負わせていることを私たちは肝に銘じておくことが必要だと思います。